



■ 『此中有大器』

※本稿は『三刀屋高校だより 蒼雲 143号』（令和6年7月8日発行）を加筆修正しています。

三刀屋高校（本校）は、今から100年前の1924年（大正13年）の4月17日に現在も三刀屋高校の校舎がそびえる雲南の高台「三刀屋が丘」に県内5番目の旧制中学校として55名の入学生を迎え開校しました。一方、掛合分校は、今から71年前の1953年（昭和28年）の5月1日に現在も掛合分校の校舎がそびえる佐中の高台「さながの丘」に“働きながら学ぶ定時制課程の農業科及び家庭科”の高校として26名の入学生を迎え開校しました。

本校・分校とも、開校により雲南地域に居住する学生の進路選択の可能性が大きく広がるとともに、雲南地域の発展に大きく寄与することとなりました。目を閉じて、開校初年度の入学生の方々の希望とやる気に満ち溢れた熱い本校生“110の瞳”、分校生“52の瞳”に思いを馳せたいと思います。

本校は2024年（令和6年）4月17日に、分校は2023年11月11日に、島根県知事・丸山達也様、雲南市長石飛厚志様をはじめ多数のご来賓の皆様にご臨席を仰ぎ、それぞれ開校100周年記念式典、創立70周年記念式典を盛大に挙行できました。改めまして心より御礼を申し上げます。また、これまで本校・分校の教育を推進し、その発展に多大な貢献をなされた皆様に対し、深い敬意と感謝の念を捧げたいと思います。

周年記念式典に向け、これまで編纂された本校・分校の周年史を拝読し“100周年”“70周年”という歴史の重みを痛感しています。なかでも、本校『五十年史』には1872年（明治5年）の「学制」頒布以来の本校を取り巻く歴史が、明治・大正・昭和という3つの時代を通して歴史教科書のごとく詳述しており、歴史的価値の高いものとなっています。その中に、島根県出身の若槻礼次郎元内閣総理大臣が1930年（昭和5年）に本校を訪れたとの記述があります。若槻は、本校来訪年の1月にイギリス・ロンドンで開催された海軍軍縮会議に首席全権として参加し、4月にはロンドン海軍軍縮条約批准という大役を果たしています。同年10月に郷土島根へ凱旋した若槻は、郷土歴訪の途中に本校を訪ねたと『五十年史』に記述されています。

若槻は、1866年（慶応2年）に松江市南部に位置する雑賀町に貧しい足軽の次男として生まれました。当時、足軽の家庭に生まれた子どもたちは藩の学校に入ることができなかったため、若槻はお寺や私塾に通うなどして勉学に励み、大蔵官僚から政界へ進出し内閣総理大臣にまで上り詰めました。本校を訪問した際、若槻は開校間もない本校で目を輝かせて勉学に励んでいる生



「此中有大器」若槻礼次郎書  
(昭和10年4月2日揮毫、雑賀幼稚園蔵)



若槻礼次郎元首相来校記念写真  
(昭和5年10月5日撮影)  
\*前列左から5人目が若槻元首相  
後列左から2人目が馬場2代校長

徒の姿に、かつての自分自身を重ね合わせていたかもしれません。

若槻は何度か帰県していますが、1935年（昭和10年）4月に母校の雑賀小学校・雑賀幼稚園を訪れた際に「此中有大器」（このなかにはたいきあり）を揮毫（きごう）しています。「大器晩成」という四字熟語でもおなじみの「大器」とは【人並はずれてすぐれた才能・器量。また、その備わった人物。大人物。】という意味です。この書は、現在雑賀幼稚園に掲げられていますが、幼稚園に掲げているところに、教育的に大きな意味があると思っています。すなわち、全ての子どもたちには無限の可能性が秘められていると。この5文字は「その可能性を見出し、大きく育てていくことが教育に携わる者の使命ではないか」そう問いかけている気がします。

本校開校100周年、分校創立70周年を迎え、それぞれ次のステージに向けた第一歩として探究学習の進化・深化を通して、全ての生徒の可能性を後押ししていきたいと考えています。本校・分校は今年度、両校そろって文部科学省が行う「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」の指定校になりました。本校はさらに『総合的な探究の時間』の質向上を図るための実践研究事業の指定も受けました。これらの事業を有効に活用し、生徒の皆さんが、より進んだ深い学びを実現できるよう探究学習の充実に努めていきたいと考えています。

「三刀屋が丘」「さながの丘」がそれぞれ“学びの丘”となり、地域を支える人材の輩出に貢献できるよう教育活動を進めてまいります。今後とも三刀屋高校・掛合分校の教育活動に一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」

- 高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化
- 情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的な探究的な学びを強化する学校などに対して、取組に必要な環境整備の経費を支援

※『総合的な探究の時間』の質向上を図るための実践研究」

- 日本社会が抱える現代的な諸課題に関する課題を設定し、探究活動の取り組む実践研究
- 「総合的な探究の時間」の質向上に取り組むことで、高校生の主体的に社会の形成に参画する意欲・態度の育成